

「私の心と口を守って下さい」 ヤコブ3：1～12 堀田修一 21・4・25

I 先行的神の恵み。主は、私たちを愛して、私たちの言葉の罪＝悪口、陰口、非難、批判、人を傷つける言葉、嘘、偽り、ごまかし、他のありとあらゆる私たちの罪を負い、十字架で私たちの身代わりに死に、すべての罪の罰を受け、完全に償って下さったのです。ハレルヤ！心から神に感謝したい。

II 「私の兄弟たち、多くの人が教師（教職者の条件①品性②みことばを教える賜物③教会の承認）になってはいけません。あなたがたが知っているように、私たち教師は、より厳しいさばきを受けます」：1。

ですから、教職者は、当然、皆さんの為に祈りますが、皆さんも教職者の為に祈り支えて下さい。悪魔は教職者を攻撃します。神は、自分の弱さと罪を認め、謙遜で日々悔い改める教職者を用いられます。

III 神から離れている時の私たちの罪、弱さ。

1. 「私たちはみな、多くの点で過ちを犯すからです。もし、ことばで過ちを犯さない人がいたら、その人は、からだ全体も制御できる完全な人です」：2。※ことばで過ちを犯さない人はいない。皆、ことばで失敗や罪を犯している。神でありながら、私たちの身代わりに死ぬ為に人となられたイエス様以外に完全な人はいません。「キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、脅すことをせず、正しくさばかれる方にお任せになった。キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは、癒された（赦された）」（Iペテロ2：22～24）。

2. 私たちの「舌も小さな器官ですが、大きなことを言って自慢します。見なさい。あのよう小さな火が、あのよう大きな森を燃やします。舌は火です。不義の世界です。舌は私たちの諸器官の中であってからだ全体を汚し、人生の車輪を燃やして、ゲヘナの火によって焼かれます」：5-6。私たちの舌は、すべて神のおかげであることを忘れ、自分の力ですべてができたかのように、大きなことを言って誇ります。小さい舌も大きな破壊力を持ちます。小さな火遊びが大火事になり、小さなタバコの火が大きな森を燃やすように、小さい舌で話す（現代は、ネット、SNS、ツイッター等も）小さなうわさ、悪口が、町中、教会中、国中に疑惑の渦を巻き起こし、一つの失言が、人生の車輪を焼くことがあります。ことばやネットで人を殺す事もある。生きている間に、自分の舌の罪や他の罪を神に正直に告白して悔い改めないなら、最後の審判の時に、ゲヘナ（悪い者が裁かれる場）で神の正しい裁きがあります。「人は、口にするあらゆる無益な（根拠のない、実体のない）ことば（不注意な言葉、根拠のない噂話、実態のない無責任な発言）について、さばきの日に申し開きをしなければなりません」（マタイ12：36）。御聖霊に気づかせられた時にすぐに神にお詫びをしましょう。必要な時は、人にも謝りましょう。

3. 「舌は火です。不義の世界です」：6。舌は、不義（悪）の世界を代表するものです。多くの不義（貪欲、偶像礼拝、冒瀆、欲望、強欲、ねたみ、憎しみ、差別、えこひいき、嘘、ごまかし等）は、舌を通して表現され行われます。その結果、からだ全体を汚し、自分の全人格とその言葉を聞かされる人々の全人格を汚すこととなります。

4. 「舌を制することができる人は、だれもいません。舌は休むことのない悪であり、死（自分と人々を滅ぼす）の毒で満ちています」：8。私たちは、無力です。しかし希望があります。主を信じ、祈り、御霊に心を満たし、支配していただくことです。「御霊の実は…自制です」（ガラ5：22, 23）。

5. 「私達は、舌で、主であり父である方をほめたたえ、同じ舌で、神の似姿に造られた人間を呪います。同じ口か

ら賛美と呪い（悪口、陰口、非難）が出て来るのです。私の兄弟たち、そのようなことが、あってはなりません」：9-10。礼拝の中で神を心から賛美し、その礼拝後、その同じ口で、ある人の悪口を言うてしまうのです。私達は、皆罪人であり、弱い者です。主の十字架による赦しときよめが必要。

6. 「泉が、甘い水と苦い水を同じ穴から湧き出させるでしょうか。私の兄弟たち。いちじくの木がオリーブの実をならせたり、ぶどうの木がいちじくの実をならせたりすることができるでしょうか。塩水も甘い水を出すことはできません」：11-12。それらは、神の創造の秩序に反します。私たちの口から神への賛美と人への悪口が出る事も私達の口を造られた神の秩序に反します。

IV 主にある解決、希望。神に喜ばれるように舌を制御するには。

1. 「心に満ちていることを口が話すのです」マタイ12：34。外側の口だけを聖めようとしても無駄です。心に満ちていることを口が話すのです。ですから、まず自分の心が聖められ守られるように祈りましょう。

2. 「主よ 私の口に見張りを置き 私の唇の戸を守ってください」（詩篇141：3）と日々、人々と交わる前に、大切な会に出席する前に心から神に祈りましょう。※悪口と相談の為の正直な言葉は違う。

3. うわさ話、陰口が伝わったとき、片方からの情報で判断せず（「最初に訴える者は、その相手が来て彼を調べるまでは、正しく見える」）、すぐに他の人に話すのではなく、自分の所で止めて（「自分の唇を制する者は賢い人」箴10：19）、すべてをご存知の神に祈りましょう。「自分に関係のない争いにいきり立つ者は、通りすがりの犬の耳をつかむ者のようだ」箴26：17。自分の分をわきまえることができますように。「何についても先走ってさばいてはいけません」Iコリ4：5。交わりを壊そうとする悪魔のわなから自分も他の人々も守られるように。「陰口をたたく者がなければ争いはやむ」箴言26：20。関係が近い人のうわさの場合、必要な時には、良く祈り、愛をもって、当人に真実を確認できますように。「柔らかな答えは憤りを静める。しかし激しいことばは怒りを引き起こす」箴言15：1。同じことを言うのにも、激しい言葉と柔らかな言葉は、違う結果を生みます。「御霊の実は柔和」（ガラ5：23）です。まず、神の前に静まり、柔和を祈り求め、相手に語りましょう。お互いの間に主を置いて。

4. 本日の箇所は、何も話さず、一切、口を用いないという消極的な生き方を神が求めておられるのではありません。神は、目的を持って口を私たちに与えられました。

①神との祈りの交わりの為。

②神をほめたたえ、賛美する為。「私はあらゆる時に主をほめたたえる。私の口には、いつも主への賛美がある」詩篇34：1。

③神と人々に感謝する口。「いつでも、すべてのことについて、…父である神に感謝しなさい」エペソ5：20。人にも「むしろ、感謝しなさい」5：4。

④最近の様子を語り合い、解決を求めて相談し、主にある交わりと祈り合う為の言葉。

⑤慰めの言葉「神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができるのです」IIコリ1：4。「我慢せずに、泣いてもいいんですよ」と、寄り添いつつ。緊張をほぐし、場を和ませるユーモアの言葉も用いられる。

⑥神が関係作りをしてくださったときに、素晴らしいイエス様のことを伝える口として。

祈り：私の心と口をきよめ守って下さい。あなたが喜ばれるように、口を神への感謝と賛美に、人への感謝、励まし、慰めに、交わり祈り合う為に、主を証しする為に用いることができますように。